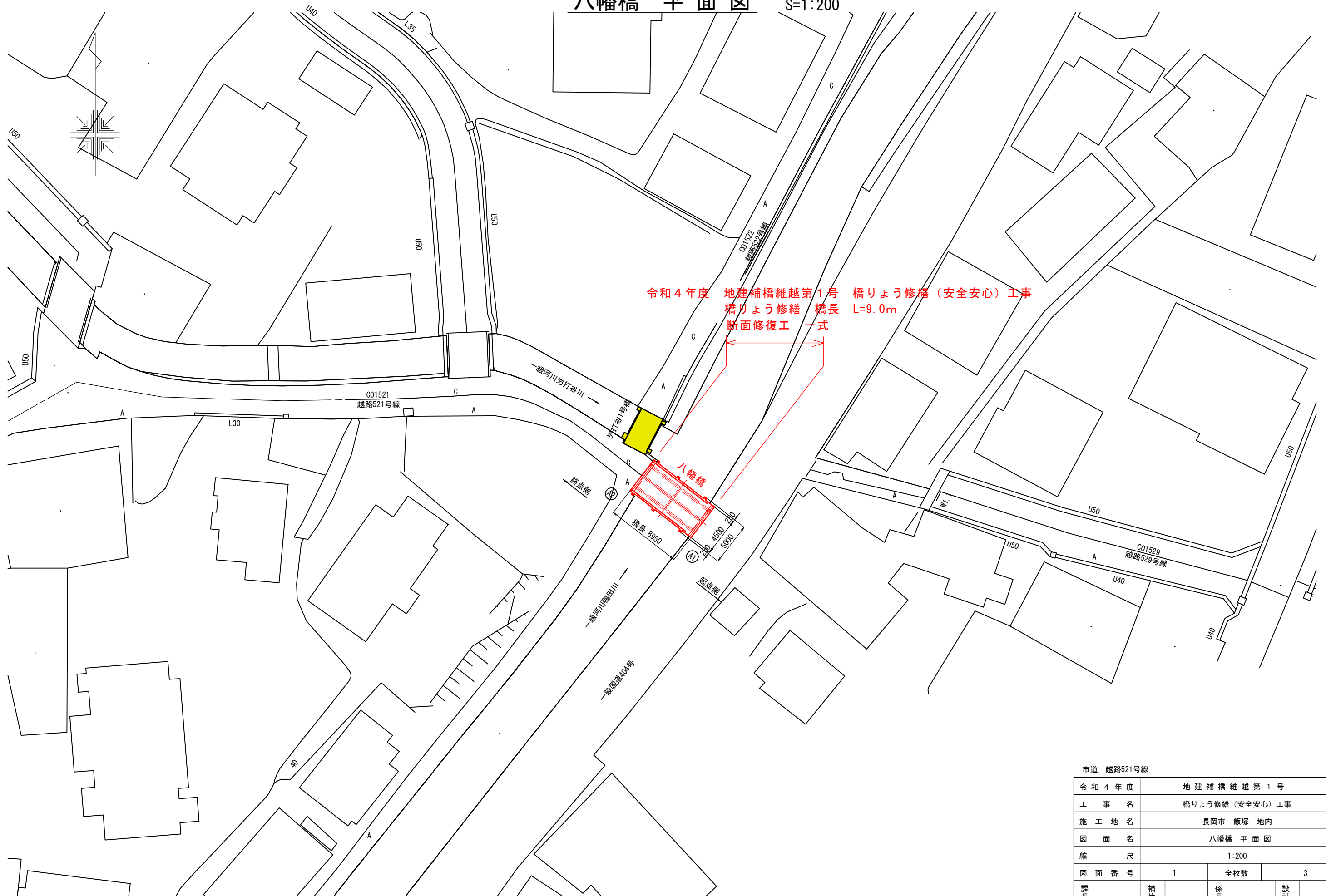


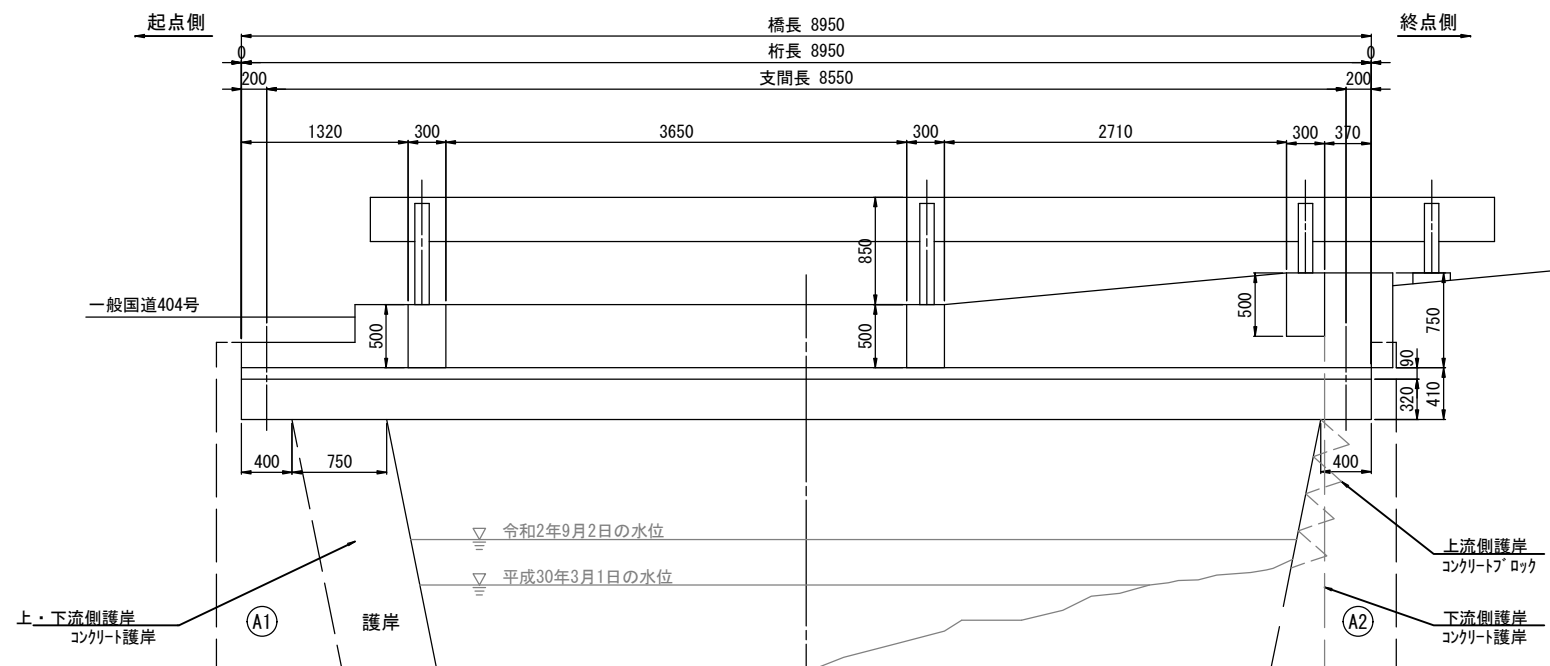
八幡橋 平面図 S=1:200



市道 越路521号線									
令和 4 年 度			地 建 補 橋 維 越 第 1 号						
工 事 名			橋りょう修繕（安全安心）工事						
施 工 地 名			長岡市 飯塚 地内						
図 面 名			八幡橋 平 面 図						
縮 尺			1:200						
図 面 番 号			1		全枚数			3	
課 長		補 佐		係 長		設 計			
長 岡 市 土 木 部 地 域 建 設 課									

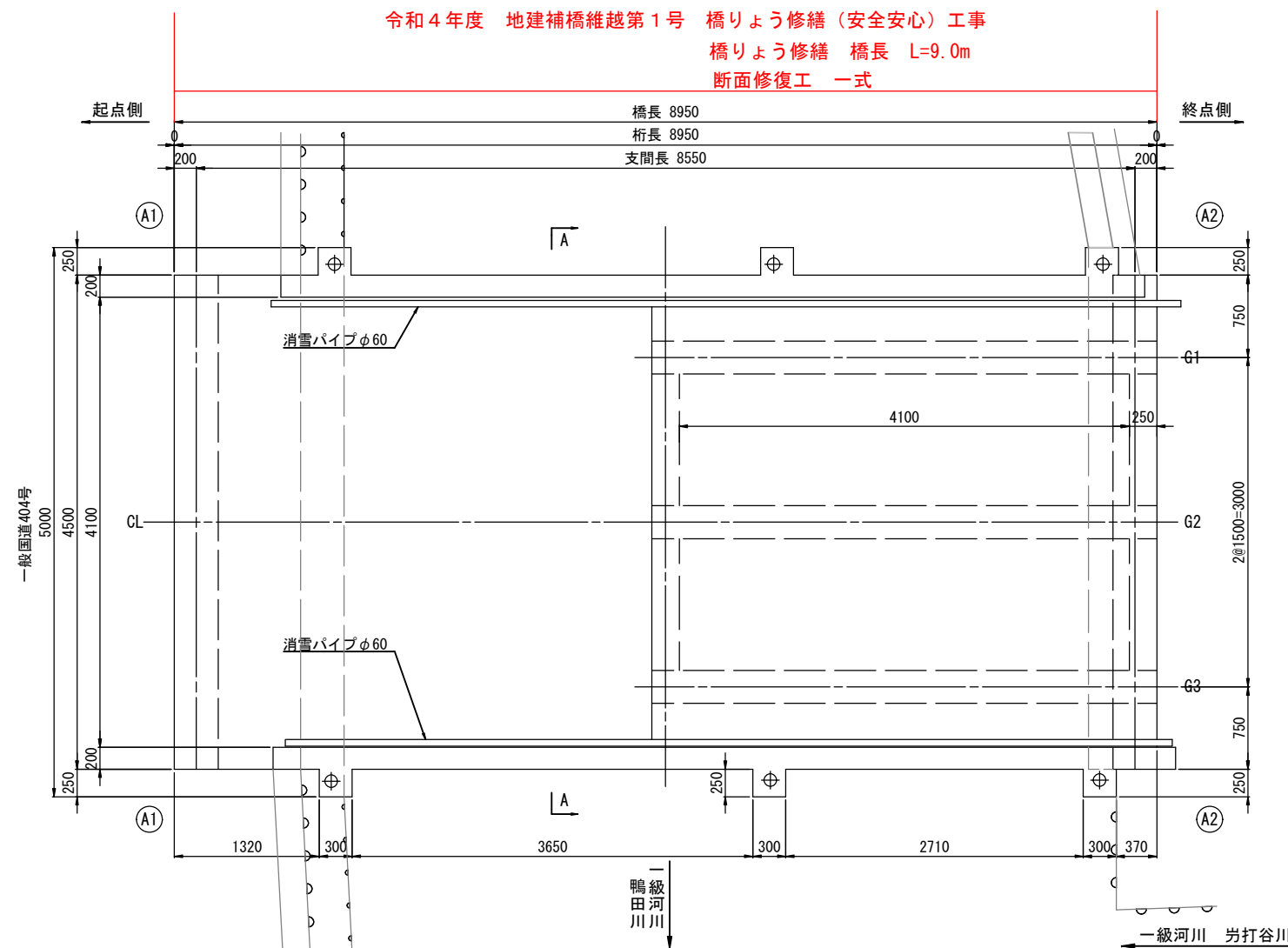
八幡橋 橋梁一般図

側 面 図 S=1:30



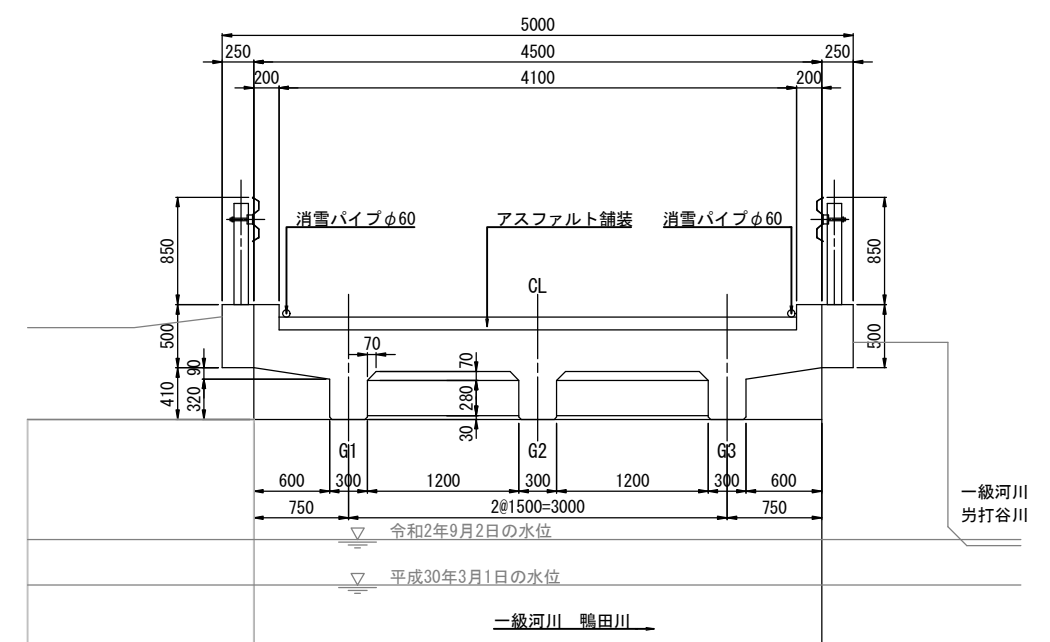
平面图 S=1:30

令和4年度 地建補橋維越第1号 橋りょう修繕（安全安心）工事
橋りょう修繕 橋長 L=9.0m
断面修復工 一式

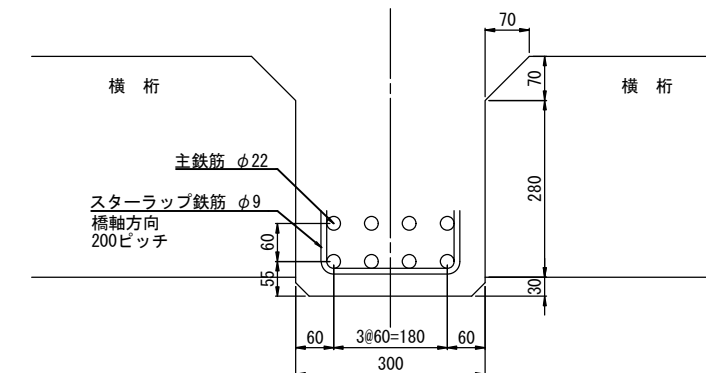


断面図 S=1:30

(A-A)



主桁断面図 S=1:6



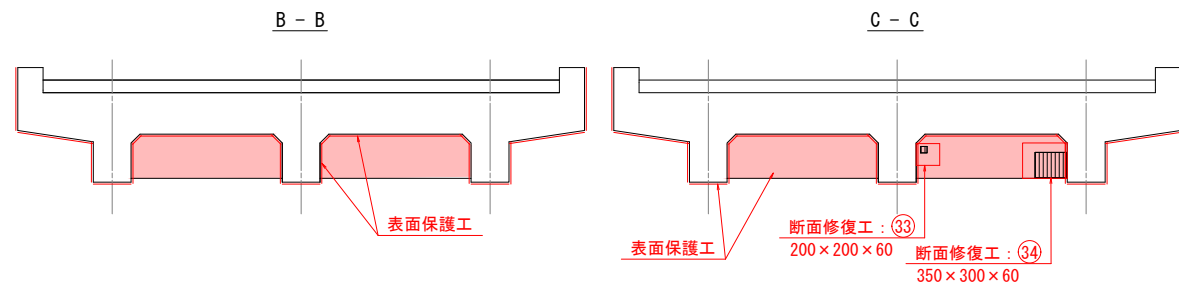
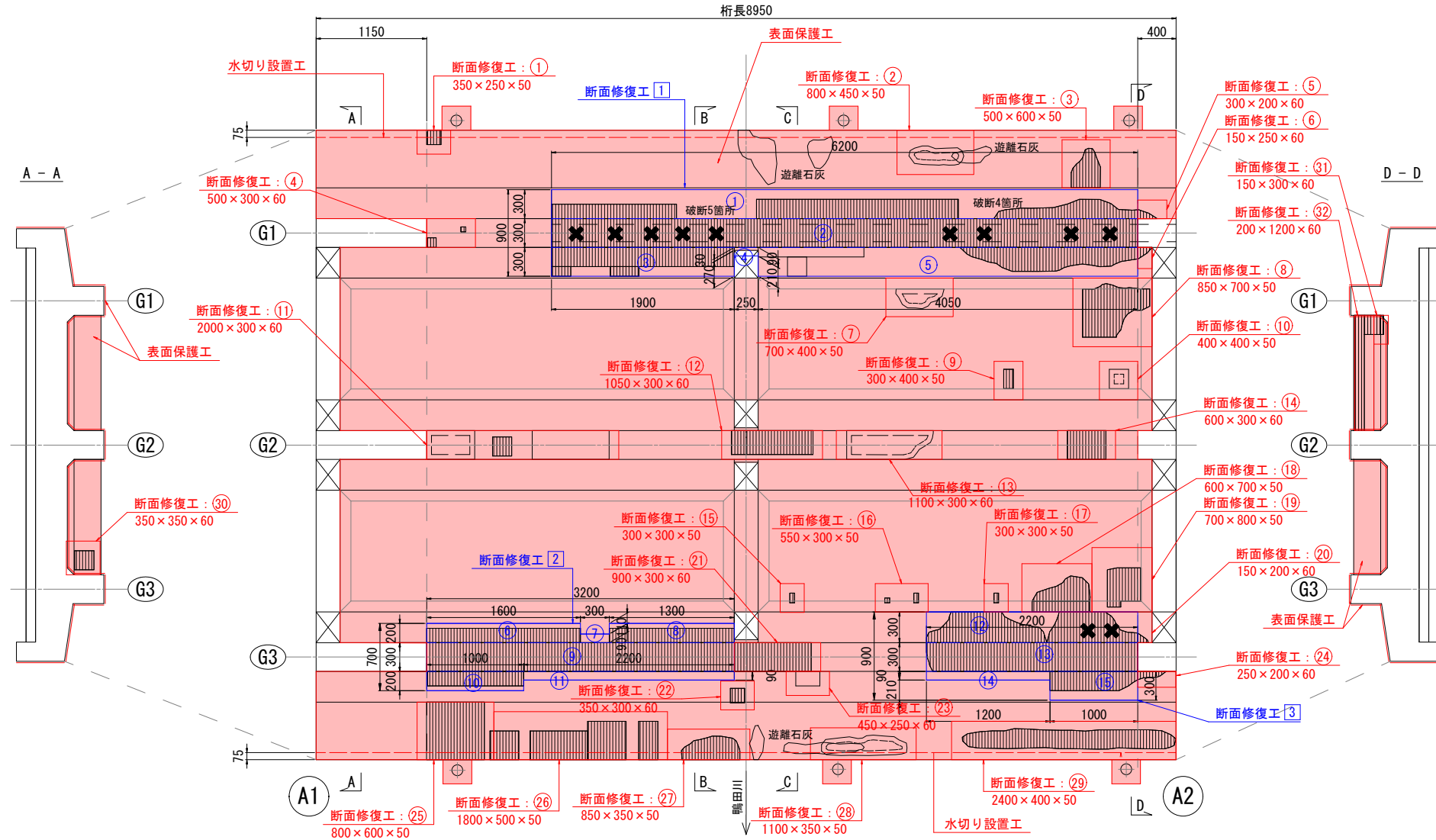
〈注記〉

1. 本図面は、現地調査を基に作成したものである。
2. 主桁の配筋は、鉄筋露出部から推定したものである。

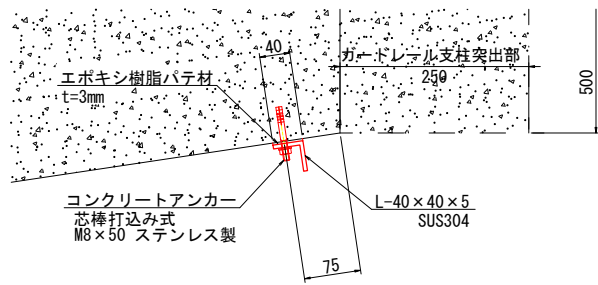
設計条件	
橋梁名	八幡橋（ハチマンバシ）
路線名及び規格	市道越路521号線
河川名	一級河川 鴨田川
適用示方書	道路橋示方書 S39年（竣工年より推定）
設計荷重	耐荷重重12t
橋長及び支間	橋 長：8.95m
幅員構成	有効幅員：4.10m，全幅員：4.50m
斜角	$\theta = 90^{\circ} 00' 00''$
設計水平震度	不明
架設年次	昭和42年（1967年）
上部工形式	単純RCT桁
主桁間隔	2×1.5m(3主桁)
径間数	1径間
下部工形式	反重力式橋台（推定）
基礎形式	直接基礎

市道 越路521号線									
令和 4 年度			地 建 補 橋 樑 越 第 1 号						
工 事 名			橋りょう修繕（安全安心）工事						
施 工 地 名			長岡市 飯塚 地内						
図 面 名			八幡橋 橋梁一般図						
縮 尺			図示						
図 面 番 号			2		全枚数		3		
課長		補佐		係長		設計			
長岡市土木部地域建設課									

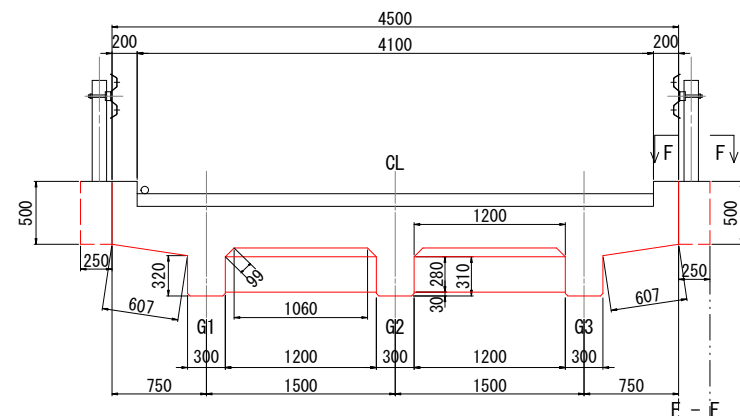
上部工補修展開図 S=1:30



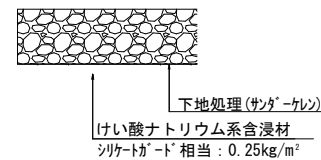
水切り設置工詳細図 S=1:5



表面保護工詳細図 S=1:30

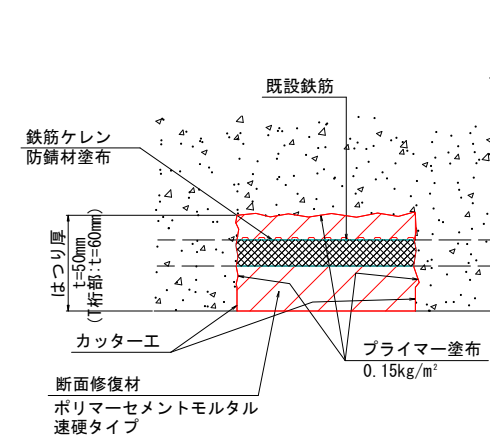


表面保護工（表面含浸工）

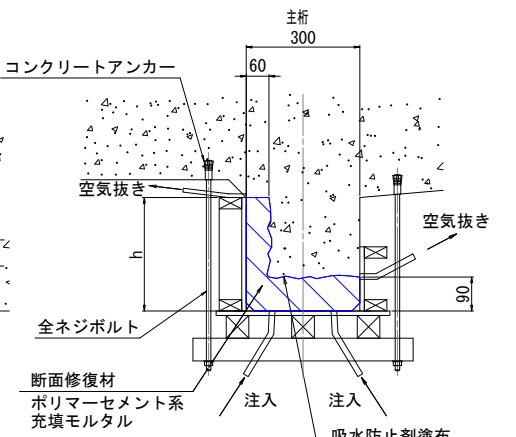


補修工法詳細図

断面修復工(左官工法)



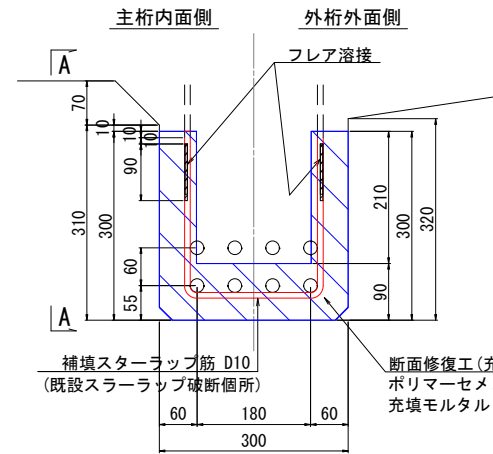
断面修復工(充填工法)



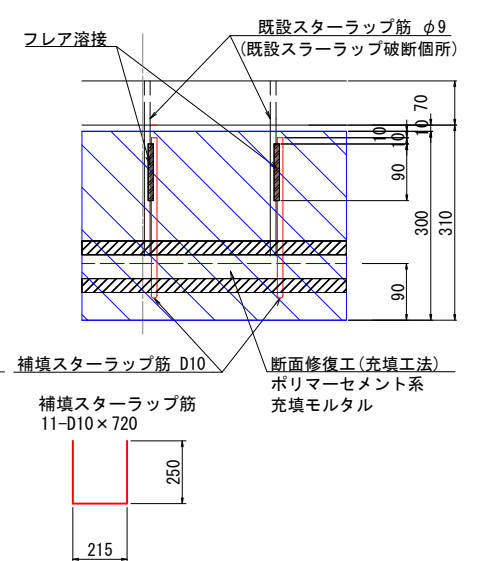
※既設鉄筋処理については左官工法と同様とする。
※上記の型枠方法は、参考の一例である。

スターラップ筋補修図 S=1:6

断面図



A - A




〈注記〉

1. 施工に際しては、現況の損傷状況を確認した上で、施工範囲、施工工法等を決定すること。
2. スターラップ筋の補修は、図示箇所以外に同様の損傷が確認された場合、協議の上、随時施工対象に加えること。
3. 断面修復工の充填工法は、○番号を1施工単位とすること。
(全箇所を同時に行わない。)
なお、充填工法に付した○番号は、施工数量算出のための仮番号である。
4. 断面修復工は、現地状況により左官工法から充填工法へ変更することはありません。
5. 断面修復の際は、上部工と下部工を縁切れさせること。
6. 表面保護工は、地覆天端面を除く上部工気中部について、出来る限り施工すること。

【損傷凡例】

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ (幅0.2～1.0mm)		う き	
鉄筋露出		豆 板	
剥 離		遊離石灰	

【補修の凡例】

補修工法	補修凡例
表面保護工	
断面修復工（左官工法）	
断面修復工（充填工法）	
水切り設置工	

市道 越路521号線									
令和 4 年 度			地 建 補 橋 維 繕 第 1 号						
工 事 名			橋りょう修繕（安全安心）工事						
施 工 地 名			長岡市 飯塚 地内						
図 面 名			八幡橋 上部工補修図						
縮 尺			図示						
図 面 番 号			3		全枚数			3	
課 長		補 佐		係 長			設 計		
長岡市土木部地域建設課									